

線形代数 II 期末試験 (2019) コメント¹

解析 II 演習 担当：小関 祥康

無事に 14 回の講義も終わり、期末試験も終わりました。そして採点も終わったということで、講評を書き残しておきます。まず平均点ですが 55.4 点 (100 点満点) でした。そしてなんと 100 点満点が 2 人いました。お見事です。今回の試験、特別に難しい問題は 1 問も出していません。講義中に出した例題や過去問をしっかりと自力で解けるようになっていれば焦ることなくいけたのではないかと思います。はたしてどうだったでしょうか。

それでは各問ごとのコメントにうつります。以下に述べる正答率はなんとなくなもの、きちんと計算して出した値ではありません。(上の平均点は計算して出した値です。)

○ 問 1 について：基本問題を列挙しています。(1) は基本オブ基本ですね。実質的にはただの行列計算なわけですからこれが解けないというのは線形代数 I がまずいというわけで…とか色々言っていると結構な人がマズいことになるんですよ。泣ける。(2) は…何か書こうかなと 3 秒くらい考えましたが何も書くことないですね。(3) は少し考える必要があったかもですが線形空間の例をある程度見てきた人であれば答えの想定はすぐできるはず。(4) はベクトル空間の次元に関する次元定理を使う問題なわけですが、過去問解いて対策してきた人であれば即答できるやつでした。(5) が分からなかったという方は講義ノートの例題を見直しましょう。ちなみにこの問 1 では途中経過を見ていないので、点数的にはオールオアナッシングです。

正答率は (1) 70 % (2) 70 % (3) 30 % (3) 30 % (5) 30 % くらいです。

○ 問 2 について：講義中に「この 4 つの中から 1 つ、定義を書くという問題を出します」と述べたとおり、定義に関する問題を出してみました。けして問題を作ることに疲れたからラクな問題にしたとかいうわけではありません。ほんとです。

正答率は 60 % くらいです。

○ 問 3 について：基底とか表現行列についてききました。問題云々以前に、これらはそもそも定義について理解することが難しいものだったのではないかと思います。例を見つつゆっくり理解してもらいたいところですが…、まあ問題を解くだけであれば何故か解けたという人も多いことかと思えます。

正答率は (1) 40 % (2) 25 % (3) 70 % (4) 20 % といったところです。

以上です。

¹試験の解答ではありません。